

|             |   |     |                            |
|-------------|---|-----|----------------------------|
| 授業科目名       | 医学研究実習<br>(Practice for medical research)   |     |                            |
| 対象学年        | 医学科4年生  | 単位  | 10単位                       |
| 科目責任者       | さかぐち たけまさ<br>坂口 剛正  | 所属  | ウイルス学 (内線 5157)            |
|             |   | メール | tsaka@hiroshima-u.ac.jp    |
|             | いまいずみかずのり<br>今泉 和則  | 所属  | 分子細胞情報学 (内線 5130)          |
|             |   | メール | imaizumi@hiroshima-u.ac.jp |
| 概要          | <p>医学研究実習は、学生が医学研究を体験し、これによって医学研究とは何であるかを理解し、研究マインドのある医師・研究者になることを目的とする。</p> <p>この場合の医学研究とは、細胞・動物および各種生体材料等を用いた実験、数理モデル・医工連携研究等、および人の集団を観察の対象とする社会医学研究等を指す。これらの取り組みを通して、研究指導者とコミュニケーションをとり、実験の背景を知り、実験計画の立案・実験手技の実践を行う。優れた結果の有無に関わらず、研究の過程を体験することが重要である。診療の見学等の臨床の場に出ることは、本実習の医学研究の範囲には含めない。</p>  |     |                            |
| 授業方法        | <p>※事前に「医学研究実習の手引き」を参照し、配属先の研究室を選択する。</p> <p>①学生は、医学科ならびに原医研を含む広島大学の研究室に所属して研究を行う。基礎社会医学、臨床医学、原医研の研究室に所属することができるが、臨床の場に出るのではなく、医学研究を行う。</p> <p>②教員の紹介によって上記以外の国内外の研究室に派遣されて研究することができる。公開されている派遣可能な研究室の情報をもとに、教員と相談して行き先を探す。学生が自分で行き先を探すことも可能であるが、その場合でも広島大学の教員を通して派遣されるという形式とする。</p> <p>③学外への派遣の場合には、派遣先研究室、派遣する教員と連絡をとり、準備を整えておく。4月に派遣先の研究室の研究内容、志願理由を書いて提出し、事前確認を受ける。</p> <p>③国内外の研究室への派遣については、旅費、滞在費は原則として自己負担とする。実習費用の手当（教育関連予算等からの援助）については消耗品代の一部に限って支出する。</p> <p>自分の行った研究について、ポスター発表および口頭発表を行う。また、報告書を作成する。</p> |     |                            |
| 到達目標        | <p>講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。</p> <p>得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。</p> <p>実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。</p> <p>研究成果を医療の現場で応用するまでの道筋を説明できる。</p> <p>研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。</p> <p>研究課題解決に向けて実験・解析を実践し、得られた結果を科学的に考察できる</p> <p>生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、生命現象や病態の解析ができる。</p> <p>研究で得た成果について、論理的にまとめ発表することができる。</p> <p>科学研究に必要な知識・技術を身につける。</p>  |     |                            |
| 講義日程        | 平成27年10月～平成28年1月のすべての授業時間をあてる。具体的なスケジュールは所属研究室と相談のこと。   |     |                            |
| 評価項目<br>評価法 | 受入研究室の教員、あるいは国内外の研究室に派遣した教員の判断に基づき、医学研究実習手帳ならびに月末のレポート、発表会での発表、報告書とともに実習中の態度などを合わせて総合的に成績を評価する。   |     |                            |
| 推奨参考書       | 各研究室の指定による。必要に応じて、基礎医学の教科書をもう一度ひもとく。実習中に英文の論文を読むことを推奨する。  |     |                            |